【01-B1-001】　教師の指導スタイルが学級経営に影響を与えた事例（小学校Ａ教諭）

学級の荒れ始めに管理的な指導を強め集団づくりに失敗した事例

キーワード：　リレーション　学級の実態把握（Ｑ－Ｕ）　実践例：「ビンゴ」　資料：心が温かくなる言葉

この事例解説では、学級が荒れ始めときに、教師が実践の見直しを図る必要性に焦点をあてまとめました。

問題の概要

６年担任のＡ教諭は、２学期が始まって、クラスで「うざい、いいじゃん、べつにー、消えろ」といった言葉が教室を駆けめぐっていることに気づいた。クラスの様子も活気がなくどことなく沈んだ重たい空気が流れいていた。

その後、チャイムで席につかない子が出てきたこと、床のゴミや落とし物がそのままにされていること、ゴミ箱から破れた図書館の本が見つかるなどした。学習時間に私語が増え、掲示物に落書きが見られる、学年の集団活動の中で順番を守らない、担任の指導をあからさまに批判をする子どもが見られるようになった。

対応の概要

１Ａ教諭の指導スタイルは？

Ａ教諭は、子どもたちに、知識や技能、社会性をしっかりと身につけさせようとする学級経営を行っていた。教師主導で、学級のルールを守って行動すること、目標に向かって努力することを推し進めてきた。学級が順調に見えた１学期、子どもたちは教師のルールに従い、ルールが守られ、トラブルも少なく、学級は静かに安定してた。

しかし、Ａ教諭は、言葉の乱れを感じはじめたとき、まとまっていたように見えた学級がバラバラになってきたように感じ、経験的に管理的な指導でクラスをまとめることができるとの自負が揺らいだ。焦りを感じ、結果としてさらに指導を強め、「そういう言葉を使ってはいけない。やめなさい」と何度も繰り返し強く指導したが、いたちごっこの状況が続いた。

２トラブルが続出し余裕をなくしたＡ教諭

６年生３クラスの学年主任でもあるＡ教諭は、学年の牽引役として、自分のクラスがモデルにならなければならいという強い思いをもっていた。しかし、次々と起こるトラブルへの対処に追われ、自らの実践を振り返って計画を立て直したり、スキルを磨いたりする余裕がなくなり、次第に追い詰められて、自分のストレスが対処療法的に子ども叱る行動につながっていることに気がつかなかった。

学級では、小グループの対立が広がり、不登校ぎみだったＢ男が登校できなくなり、Ｂ男への個別の対応にも追われ、多忙感から学級の荒れに対応する余裕をなくしていった。

実践のポイント(改善策)

２　教師の実践の見直しを図る

教師が毎日行う指導行動（2つの側面）

「指導面」　教育の専門家として子どもたちに教える。　(ルールの定着をまず重んじる)

「援助面」　子どもたちの心情面を支え自ら活動することを支える。　(リレーションの定着ををまず重んじる)

教師は、自分の傾向を把握して状況に応じて２つの対応をバランスよく調整すること。このバランスと学級集団に**ルールとリレーション**を定着させることは密接に関係している。

自分の取組を評価する（教師の自己改革）

〔評価の目的〕

・改善点を見つけ、次の実践でよりよい効果を得るため。

●計画を立てる前に実態把握を行う。

参考：**『楽しい学級生活をおくるための アンケートQ－U』**

●計画を立て実践したら必ず結果を評価する。

●自画自賛してこれでいいと思わない。

●子どもにだけ責任を求めない。

●実践が終わったらそれを評価する。

●有効さの見られなかった内容やスキルを具体的に抽出する。「これからはもっとがんばろう」という抽象論ではだめ。

●実践の評価は定期的に行う（学期、月毎）

●実践の評価は仲間と行う。

・自分の気づかないウィークポイントやスキルが明らかになる。

・代案についてアドバイスを受けることがきる。

・つらさを受け止めてもらうことで新たな取組への意欲が高まる。

管理型の学級は指導重視で「子どもとのリレーションの形成が弱い」弱点がある

●教師と子どもの１対１のリレーションづくりから始めるように心がける（同じ目線のコミュニケーション）

●楽しい活動を設定し、子ども同士のふれあいの場を増やす。

●子どもと親しくうちとけてから教師としてのつきあいを増やすと指示が通りやすい。

子どもたちの承認感のバラツキに配慮する

●教師の強い指導は、子どもに「押しつけ」と受け止められ、防衛反応が起こります。教師の期待に応えられる子どもは「学級で承認されている」と感じ、そうでない子どもは「承認されていない」と感じ、その差が大きくなる。

●承認感の低い子どもには、特に意識して言葉がけをする。

「自分で計画をたてて、途中苦労したけど、やりとげて、先生はすごいなあと思ったよ」

「係活動をまじめにやって、みんなの役にたっているね」

「発言のきまりを使って話せたね。次も同じようにやって見よう。先生もしっかり聞くよ」

担任だからやれること

〔まず動く〕

●第１にアクションを起こし、教師からメッセージを発する

・「どうしたのかな。何か言いたいことがあるのかな」など気づいたというメッセージを発する。

・心ある子どもはハッとし、荒れている行動をしている子どもも「あれ？、おや？」と反応する。

〔個々に働きかける〕

・寄っていって「何してるのかな、楽しそうだね」など、君たちのことを心配しているよというメッセージを投げかけておく。

〔集団に働きかける〕

・短冊に「して欲しい言動」と「して欲しくない言動きを書いて、子どものやり場のないストレスをを吐き出す。

集団づくりにカウンセリング技法を生かす

・クラスの荒れがさほど深刻でない場合、学級の約束事や、**ルールの再契約**をする。

ルールの守り方を示して体験させる

例：ｿｰｼｬﾙｽｷﾙﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ「ビンゴ」

・小集団がたくさんあってバラバラになっているクラスでは、他のグループを排斥することで自分たちのグループを維持している様子が見える。こういった課題に効果的な技法として構成的グループエンカウンターがある。

例１：**「ここがあなたのいいところ」**

進め方：グループで互いによさを見つけあい、ワークシートに書いて交換し会う

例２：**「アニメメッセージでガンバ！」**

進め方：本人が好きなアニメキャラクターを教師が事前につかみ、そのキャラクターを教師がカードに手書きする。それに、本人が負担を感じない程度の「今の君のいいところや努力点」を書き込みメッセージカードとして渡す。